

二〇一七年度

一般公募推薦入学試験

【適性検査】

「国語」問題

1. 問題および解答用紙は試験開始の合図があるまで開かないでください。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 受験番号および氏名は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 試験終了後、解答用紙を問題の上にふせて置いてください。
5. 回収するのは解答用紙だけです。問題は持ち帰ってください。
6. 「国語」の問題は1ページから6ページまでです。

1 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。

1 自分に嘘をつきたくないとは多くの人が思うことです。しかしそもそも「自分に嘘をつく」とは、どういうことなのでしょう。たとえば、この人と一生一緒にいよう、結婚しようと考えたとします。しかし自分には何か違和感がある。いま自分はどこか無理している。でもその無理はするべきだ、なぜならこの人は一生一緒にいるはずの大切な人なのだから……。こう考えてしまう時、人は抜け出せない自分への嘘の地獄に入り込んでいます。そして多くの人がそこに入り込んでいます。

2 このような違和感を抱かせる機能というのは、人間がまだ人間でない頃から培ってきた高性能の防御装置です。この防御装置は脳神経科学から考察できるように思います。少し長くなりますが、説明を試みましょう。

3 アントニオ・ダマシオという脳神経科学者が、『感じる脳』⁽¹⁾という本の中で、「情動」と「感情」を区別しています。情動とは、ある刺激に対する生体の反応そのものことです。たとえば危険が迫っている場合、私たちは、身体がフル^(B)えたり、精神エネルギーがその危険の現れる方向に向けて集中するということを経験します。こうした反応の総体が情動です。どんな生物にも情動のメカニズムがあります。植物ですら、たとえば太陽の方向へと花卉が向かうという意味での情動のメカニズムをもっている。

4 それに対し、感情とは、いわゆる心のなかで意識される気持ちのことです。たとえば危険が迫っている時、「怖い」と思うことです。意識といってもいいでしょう。

5 ダマシオは進化の過程において、感情は情動の後にやってきたと言います。たとえば、アメフラシにも情動はある。ならばアメフラシに感情はあるかというところ、たぶんない。あらゆる生物は情動をもっており、それによって環境からの刺激に応答しながら生きています。それに対し、人間のような感情のメカニズム⁽²⁾を獲得した生物は、環境からの刺激を意識化し、それを精査することで、より高度な応答が可能になっているわけです。

6 進化の過程のみならず一個の生体の中でも、感情は情動の後にくるとダマシオは言っています。つまり、生体は最初に情動を形づくる。その後で、それが感情として意識されるようになるわけです。

7 ここに見出されるのは、私たちの常識⁽³⁾とは異なる、心と体の関係です。たとえばダマシオは、悲しみの情動が「悲しい」という気持ちを実際に作り出すという興味深い実験結果を紹介しています。どういうことかというところ、すすり泣くというのは悲しみの情動の一部であるわけですが、すすり泣くことを含めた、悲しみの情動という身体的な反応がまずあり、その結果として「悲しい」という感情が心に現れるというのです。つまり私たちは、「悲しい」と感じるからすすり泣くのではなく、すすり泣くから「悲しい」と感じる

のです。

8 実以上の話は、僕が専門的に研究している十七世紀の哲学者スピノザが言ったことと全く同じです。スピノザは平行論という考え方に基づき、感情とは、身体がコウムの変容（つまり情動）が意識化されたものに過ぎないと考えていました。ダマシオもスピノザに関心をもっています。『感じる脳』の英語の原題も『Looking for Spinoza』、すなわち『スピノザを探して』なんです。最新の脳神経科学が、三百年以上も前に哲学者が言っていたことにやっと追いついたのですね。

9 さて、なんでこんなことを説明したかというと、実は私は、自分に嘘をつくとか、違和感を抱かせる機能というのを、この情動と感情のメカニズムに基づいて考えているからなんです。

10 違和感を抱かせるという高度な機能の根拠には、生物に固有の情動のメカニズムがあると思われます。どこか危険だ、何かおかしいというのを身体的反応が教えるというわけです。

11 人間の場合には、それに加えて感情のメカニズムもある。つまり、そうして感じられたことを、意識によってさらに精査することができます。

12 ところがここに落とし穴があります。感情は情動のもたらす結果であるわけですが、この感情を抱く心というものは、情動に逆らうことができるのです。たとえば、危険を感じた身体が、情動によって危険を表現し、その結果として「あぶない」という感情が心に表れる。普通なら生体は危険の情動に基づいてそれを避けるわけですが、人間の場合は「確かにあぶない」と感じつつも、「あぶないけれどやらねばならない」などと考えることができるのです。

13 同じように、「この人にはどこか違和感があるけれど、でも、この人は一生ツレ⁽¹⁾添うはずの大切な人なのだから……」と考えることも可能です。情動しかなかったら、こういうことにはならないのです。「こいつとは合わない。だから、言い寄られても、結婚はしない」で終わりです。

14 感情のメカニズムは、周囲の環境に対する高度な分析を可能にしました。しかし同時に人間は感情を獲得することにより、情動の教えるところを裏切れることもできるようになった。自分に嘘をつくことが可能になったのもそのためです。或る意味では、自分⁽⁴⁾に嘘をつかないというのは難しいことです。しかしすこしずつそれを達成していくことは可能です。まずは情動と感情のメカニズムについてすこし考えてみてください。ヒントがあるかもしれません。

（國分功一郎『哲学の先生と人生の話をしよう』より）

作問のため内容を一部改変した

問1 ———線部(A)～(D)のカタカナは漢字に改め、漢字はひらがなで読み方を示しなさい。

問2 ———線部(1)「情動とは、ある刺激に対する生体の反応そのものこと」とありますが、この「情動」の定義と対になる箇所を本文中より二十五字で抜き出し、その始めと終わりの五字をそれぞれ記しなさい。(句読点などの記号は一字と数える。)

問3 ———線部(2)「メカニズム」とありますが、この「メカニズム」による具体的な現象として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あることに対して何らかの違和感を抱く。

イ 精神エネルギーがある事態に対して集中する。

ウ 外界からの刺激に対して反応する。

エ 危機的な状況に陥った時に恐怖を感じる。

問4 ———線部(3)「私たちの常識」について、次の問いに答えなさい。

① 「私たちの常識」について、次のように説明しました。

I	と	II
---	---	----

に当てはまる適当な語句を、本文中よりそれぞれ二字で抜き出しなさい。

生体は最初に

I

 を形づくり、そのあとで、それが

II

 となって現れると、私たちは思っている。

② ダマシオの考えと照らし合わせたとき、「私たちの常識」はどのような点において間違っていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、

I

 と

II

 には、それぞれ①と同じ言葉が入ります。

ア

I

 と

II

 を類似関係として考えている点

イ

I

 と

II

 を対立関係として考えている点

ウ

I

 と

II

 の因果関係を逆に考えている点

エ

I

 と

II

 の優劣関係を逆に考えている点

問5 この文章を前半と後半に分けると、後半の始まりは何段落目からになりますか。その段落番号を数字で答えなさい。

問6

——線部(4)「自分に嘘をつかないというのは難しいことです。しかしすこしずつそれを達成していくことは可能です」とありますが、筆者はどのようにすれば「自分に嘘をつかない」ことが可能になると考えていますか。筆者の考えとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 情動こそが感情に先立つものであると考えてみることで、人間はすこしずつ自分に嘘をつかないようになっていくことができる。

イ 身体的な反応から生じた違和感を科学的に精査することで、人間はすこしずつ自分に嘘をつかないようになっていくことができる。

ウ 周囲の環境に対する高度な分析をもとに、情動に反発することなく生きること、人間はすこしずつ自分に嘘をつかないようになっていくことができる。

エ 感情のメカニズムを消滅させ、情動のメカニズムの教えるところにそのまま従うことで、人間はすこしずつ自分に嘘をつかないようになっていくことができる。

2 次の文章は江戸時代の御伽草子『二十四孝』の一節です。本文を読んで後の設問に答えなさい。

董永は、いとけなき時に母に離れ、家貧しくして常に人に雇はれ、農作をし、賃を取りて日を送りたり。父、さて、足も立たざれば、小車を作り、父を乗せて、田のあぜに置いて養ひたり。ある時父(1)におくれ、葬礼をととのへたく思ひ侍れども、もとより貧しければかなはず。されば料足(2)十貫に身を売り、葬礼を営み侍り。さて、かの錢主のもとへ行きけるが、道にて一人の美女に逢へり。かの董永が妻になるべしとて、ともに生きて、一月に練(3)の絹(4)三百疋織りて、主のかたへ返したれば、主もこれを感じて、董永が身を許したり。其後、夫人董永に言ふやうは、「我は天上の織女(5)なるが、汝が孝を感じて、我を降して負ひ目を償はせり」とて、天へぞあがりけり。

(『二十四孝』より)

- ※1 いとけなき時……幼い時
- ※2 料足……ある用件のために必要な費用
- ※3 練……目を細かく固く織り上げた絹布
- ※4 疋……織物の長さを表す単位
- ※5 負ひ目……返さなければならぬ借金

問1 ——線部(1)「父におくれ」とはどういうことですか。次の□に適切な漢字一字を記しなさい。

父が□くなること

問2 ——線部(2)「思ひ侍れ」は歴史的仮名遣いで書かれています。「思・侍」の読みを含め、すべて現代仮名遣いに改めなさい。

問3 ——線部(3)「汝」はだれのことを指していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 董永
- イ 父
- ウ 錢主
- エ 織女

問4 ー線部(4)「負ひ目を償はせり」の内容を次のようにまとめました。次の I

II に当てはまる語を次の中から選び、記号で答えなさい。

I が地上にいる孝行者の董永を助けるために II を遣わした。

ア 天 イ 織女 ウ 父 エ 母

(以下余白)

